

タイトル:汚れちまった悲しみに……

◆シナリオ概要

プレイ人数3～4人を想定した現代シナリオです。

プレイ時間は4～5時間を想定してます。

今回のシナリオは継続探索者ではなく、ハンドアウトに沿ったPCを作ってもらおう事になります。

継続探索者でプレイする際はKPが不自然な場所を改良してください。

なお、このシナリオにおける正気度判定は3～4回想定です。

◆あらすじ

街全体で二つの権力者グループが転換期を迎えていた。

一つは街の市長の座。一つがヤクザの組長の座である。

この統治者交代が若い者へ上手く回れば良いのだが、今回はそうはならなかった。

明らかな外部勢力の介入により若い神輿が台頭しているのだ。

その勢力こそミ=ゴと呼ばれる神話生物であり、その二つの神輿は秘密裏に繋がっていた。コネを持っておくことはお互いに有利であるからである。

二つの背景の裏に潜むミ=ゴ。

探索者達はその野望を阻止して街を蝕む闇に打ち勝つことができるのか。

◆NPC一覧

・柴葉彩菜(さいばあやな)

女性。28歳以上。PC1の姉のような存在。

非常に才能溢れる美しい女性。エネルギッシュな印象を受けるが、既に正気が限りなく0に近い。

児童養護施設で育った彼女は子供の頃から何やら不思議な声を聴くことができた。

彼女は非常に強い霊的才能を持っていた。

そんな彼女は資産家の柴葉大介に引き取られる。

彼は彩菜を強姦目的で養子にしたのだった。彼女の精神はそこで擦り切れていく。

18歳になる頃にはただの木偶のようになってしまっていたのだが、ある日子供の頃に聞いたような声が聞こえる。

それは屋敷の地下からであった。地下には大介の不老不死の研究に使われていたミ=ゴが居た。

彼女は彼と共謀して大介を殺害することに成功する。

お互いに共通の敵を打った形となった。そして彼女は自分を犯した人間に復讐することにした。

彼女の優秀な記憶力が明確にその顔を刻み込んでいたのだ。それくらいしか彼女の記憶に残る出来事がなかったとも言えるほどに彼女は、犯される以外の生を歩んでこなかったのだが。

独り身だった大介(未成年への性的嗜好しかなかった為、妻や子供は居なかった)の遺産を相続した彼女は独学で学問と外宇宙の真理を学ぶ。

そして彼女は自分を犯した人間に、自分の立場を誇示する為に市長選へと望むことにした。

同時に彼女の復讐は表舞台では行えない為に、裏の者達とも手を組むことにしたのだった。

・柴葉大介(さいばだいすけ)

男性。58歳。異常性癖の資産家。

有り余る金を使い、権力者達の歪んだ性欲を発散させる為の場を提供していた。

無論それは自分の為に作られたものを開放しているに過ぎない。

晩年は徐々に衰えていく性への執着から自分の死期を悟り、不老不死などという夢物語に投資していた。普通だったらそれは鼻で笑うような出来事なのだが、ある商人から買った異生物はこの世の者ではなく、彼を盲信させるには十分であった。

・只野茂武(ただのもぶ)

男性。48歳。異常性癖の市長。

柴葉大介から政治献金を受け取り、市長に君臨していた。

見返りとして大介のハーレムや児童養護施設の抱き込み、ヤクザへの根回しなど様々なみ消し作業を行っていた。

彼もまた大介と同じようにロリコンであるため、どちらにとってもお互いの存在はありがたいものであった。

彼もまた、幼い彩菜を犯した一人である。

・木場秋広(きばあきひろ)

男性。55歳。黙認していた養護施設の所長。

彼は寄付という名の賄賂により、柴葉の元に少女たちを提供していた。

とても弱気な性格である。

・勝岡五郎(かつおかごろう)

男性。50歳。街を仕切るヤクザ。

義理人情に厚く、何よりも面子を重んじる極道。

地元愛にも溢れ、薬などを島に持ち込む者には徹底的な制裁を加えていた。

最近では衰えたなどと言われるが、その眼は鋭い。

7歳の孫が居る。

・勝岡弘子(かつおかひろこ)

女性。7歳。組長の孫。
堅気の両親から生まれた孫。
目に入れても痛くないとばかりに蝶よ花よと可愛がられている。

・田島大河(たじまたいが)
男性。25歳。組の鉄砲玉。イメージ:アイル(グランブルーフアンタジー)
元は路上喧嘩のカリスマと呼ばれ、PC2とのコンビで無敗の伝説を作っていた。
自分を拾ってくれた木場の事を本当の親のように慕っている。
部下の面倒も見良く慕われているが、組長を上辺しか慕わない千堂明を嫌っている。

・千堂明(せんだうあきら)
男性。25歳。狂気の淵に立つインテリヤクザ。
武道はからっきしだが、頭が良い。集金能力に優れ、組では一目置かれている。
いつか自分が組長になることを目標にしていたのだが、圧倒的な資金を持つ柴葉彩菜と知り合い、いよいよ自分の夢を叶える時が来たかと温めていた計画を実行しようとしている。
彩菜の出した資金援助の条件が著名人の誘拐だった。普段の彼ならそんなリスクの高いことはしないはずなのだが、彩菜の提示した金と彼女がこれから手に入れる地位と結べるコネクション。そして何より彼女が紹介したミ=ゴという常識を超越した狂気に彼は飲まれてしまったのだ。
彼は現在正気では無く、ミ=ゴの科学力と自分のこれから手に入れるであろう兵隊の数と金で日本のヤクザを統一出来ると信じ切っている。

・西郷忠(さいごうただし)
男性。50歳。市の警察署長。
ゴリラのような凶体のデカさと野太い声。
柔道の強化選手であった事もある英傑。
組長の勝岡と同級生にして親友でもある。
お互いに後継者を探しており良く屋台で飲んでいる。
その事を知っているのはごくわずかである。

・三好次郎(みよしじろう)
男性。36歳。PC3と同期のヤクザ。
千堂を世話してやってる親分。彼が来る前は上納金を払うのに四苦八苦していたが、彼が来てからは楽になったらしい。
ただ彼の底が読めず、表面上はともかく内心慕われていないだろうと思っており悩んでもいる。

千堂を持って余し気味になっているが上納金の事もあり強く言えないでいる。

・古瀬井星(こせいぼし)

男性。58歳。ロリコン小説家。

世間的には高名な純文学作家だが、その実態は少女に異常な性的嗜好を覚える変態。

彼もまた幼かった彩菜を犯している。

・亜蘭隅士(アラン・スミシー)

既に殺されている映画監督。

大層な親日家で日本に帰化している。しかし異常な性癖を持っていた。

もしかすれば日本に帰化したのも常にハーレムを利用できるという思惑もあったのかもしれない。

彩菜を犯した一人。

・大島健司(おおしまけんじ)

既に殺されている哲学者。

彩菜を犯した一人である。

・高杉修(たかすぎおさむ)

市長選の候補の一人。彼は善人である。殺される事が役割。

ただし彼の死は復讐に関係のない余分な死である。

◆ハンドアウト

PC1:ジャーナリスト

年齢:25歳で作成すること。

コネクション:柴葉彩菜 関係:姉

貴方は児童養護施設で育った。

幼い頃に血の繋がらない姉が養子に出されて別れて以来、彼女の事がずっと気がかりだった。

大人になった貴方はジャーナリストとして働いていた。

心の片隅に情報が大量に舞い込むこの仕事ならば彼女の事の情報が出てくるかもしれないと思ったのかもしれない。

そんな貴方に編集長から取材を頼まれる。

今度の市長選に出馬する女性が美人なので、美人すぎる～というネタで記事を書いてほしいとの事だ。

貴方はその写真を見ると――。

→柴葉彩菜(さいばあやな)

女性。28歳以上。PC1の姉のような存在。

非常に才能溢れる美しい女性。

児童養護施設で育った彼女は子供の頃から何やら不思議な声を聴くことができた。

彼女は非常に強い霊的才能を持っていた。

PC2:警察官

年齢:名前に龍の文字を入れた上で25歳で作成すること。

コネクション:田島大河 関係:ダチ

貴方は交番勤務の警察官である。

最近この街が妙に騒がしい。

それは今度行われる市長選挙のせいであつたり、この街のヤクザ達が何やら騒がしくしているせいでもあり、更に言えば著名人の殺人事件が起こっているからだった。

街が変な緊張に包まれていると持ち前の嗅覚で感じ取った貴方は早速パトロールに乗り出す事にした。

貴方にはこの街を守る義務がある。

→田島大河(たじまたいが)

男性。25歳。組の鉄砲玉。

元は路上喧嘩のカリスマと呼ばれ、PC2とのコンビで無敗の伝説を作っていた。

現在はコンビを解消している。

PC3:ヤクザ

年齢:35歳以上作成すること。

コネクション:勝岡五郎・三好次郎 関係:恩義

貴方はこの日計市のヤクザである。

荒れていた貴方はを拾ってくれた組長の勝岡に恩義を感じている。

最近、同じ組の千堂明が着々と自分の兵隊を増やしているという噂を聞いた。

元々頭が良いインテリヤクザだった彼だが、最近どうにも目立っている。

勝岡に謀反でも企てているのではないかと思った貴方は行動を開始する。

先ずは千堂の親分である三好次郎(みよしじろう)から彼の事について聞くことにした。

→勝岡五郎(かつおかごろう)

男性。50歳。街を仕切るヤクザ。

義理人情に厚く、何よりも面子を重んじる極道。

地元愛にも溢れ、薬などを島に持ち込む者には徹底的な制裁を加えていた。

最近では衰えたなどと言われるが、その眼は鋭い。

7歳の孫が居る。

→三好次郎(みよしじろう)

男性。36歳。PC3と同期のヤクザ。

PC4: 探偵

年齢:35歳で作成すること。

コネクション:古瀬井星 関係:搜索対象

貴方はこの物騒な日計市の探偵である。

今日も今日とて理不尽な客相手に辟易していると、また依頼が舞い込んだ。

依頼内容は古瀬井星の居場所を突き止めてほしいというものだった。

その名は有名な純文学小説家であるが、聞けばどうやら行方不明になっているらしい。

見つけたらすぐに連絡してほしいとの事だ。

◆シナリオ進行

PC2の導入。

夜。非番であったPC2は殺人事件があった現場の応援に駆り出されていた。

しかし、基本は交番勤務である貴方は事件現場に群がる野次馬から現場を保存するために呼ばれた要因である。

上から下から流れてくる情報をまとめると、殺されたのは亜蘭隅士(アラン・スミシー)と呼ばれる帰化した映画監督であることが分かる。

<聞き耳>に成功すれば「くそ、これで何人目だ？」というぼやきが一戸建ての家から怒鳴るのが聞こえてきた。家の中で叫んでここまで消えるというのは相当大的な声で怒鳴ったのだろう。

PC2と同じように呼ばれた警察官は気だるげに話しかけてくる。

「お前も非番だったの？ 災難だったね。最近はこんなばっかで本部の方はピリピリしちゃってるのさ」

「知ってるだろ？ 著名人連続殺人事件ってやつさ。この間も大島健司(おおしまけんじ)が殺されただろ？ これで三人目だ。世間はメディアを通して警察の無能さを叩いている。たまったもんじゃないよ。なら著名人を全員集めてこいってんだよな」

彼はそうぼやきながら、ああ、早く終わらねえかなと呟いた。

<アイデア>に成功すれば大島健司の事について何か分かるだろう。

無論、大した情報ではなく、哲学者であるということくらいしか分からないが。

◆PC1の導入。

次の日の午前。探索者はゴシップ雑誌編集部に足を運んでいた。

この編集部との関係は自由に決めても良い。ただフリーなど方がやりやすいだろう。

探索者は雑誌編集長から呼び出されて記事を依頼される。

その記事とは美人すぎる〇〇という見出しである。

既に他の記者が数人声をかけているらしい。探索者が担当する女性はこの人だと写真を渡される。

<アイデア>に成功すればその女性にどこか見覚えがあることに気づく。

その違和感を言葉にすることが出来ない探索者がやきもきしていると、編集長はその女性のパーソナルを教えてくれる。

写真の女性の名前は柴葉彩菜。28歳の女性である。

<アイデア>+15%に成功すれば柴葉という名字に心当たりがあるだろう。

柴葉とはこの街の外れにある大きな屋敷であり、様々な方面にコネクションがある人物である。

ただ数年前に柴葉大介は他界している。

編集長は午後から街の中心地で柴葉彩菜が演説するから行ってみると良いと告げる。

◆PC4の導入

午前。今日も今日とて猫を捕まえ顔中傷だらけになりながらも、探索者は無事に依頼を済ませて事務所の椅子に深く腰を降ろす。

そんな時に事務所のインターホンが鳴る。

招き入れるとそこには如何にも地味な。化粧に慣れていないのであろう、顔中がちぐはぐな女が入ってくる。ただ体つきは成熟した女性のそれであり、少しばかり服のサイズが小さいのかボディラインの浮く恰好をしている。

※実は彼女は柴葉彩菜である。彼女はおしゃれに無頓着であり、普段はこのような恰好なのである。

彼女は探してほしい人が居ると切り出す。

依頼内容は古瀬井星という作家を探してほしいというものであった。

彼女の人となりを知るのであれば、彼女は古瀬詩織という名前であり、彼女もまた純文学作家を目指しているのだという。

<心理学>を振ると嘘も本当も言っていないような印象を受ける。

報酬は前金で100万払うとのことだ。ただしこの事は他言無用で、見つかり次第すぐに連絡が欲しいと言われる。

依頼を達成したら前金と同じ額支払うと言われる。

受けなければ始まらないのでKPは依頼を受けるように促す事。

◆PC3の導入

午後。PC3が千堂の親分でもある三好次郎(みよしじろう)と食事するシーンである。

薄暗く汚い蕎麦屋でPC3は三好次郎と食事をしていた。

「お前さんが飯に誘うなんて珍しいじゃないか。それで、話るのは何だい」

彼はタバコを口に咥えながら問いかける。

そこで火を点けてやるのであれば、彼に対する技能判定に+20%する。(ロールしてくれば)

しばらくするとライターを見つけた彼はたばこに火を点ける。

千堂の事を聞くのであれば彼は歯切れ悪そうにする。

<信用><説得><言いくるめ>に成功すれば彼は話してくれるだろう。失敗しても話してくれるが、☆の箇所は話さない。

「あいつは俺より頭が良いやつだ。お前は俺が毎月の上納金に苦しんでいた事を知ってるだろう？ それがいづが子分になってからはそれがすっかり苦じゃなくなった。あいつは金儲けが上手いんだ。俺みたいな前時代の悪とは違ってな」

「だが、少し周りを見る余裕が出来た頃に気づいちまったんだ。ああ、こいつは俺の事を慕ってないんだってな。表向きは俺を立ててくれてはいるが、裏じゃあ何言ってるか分からねえ。まあ散々世話になってるから当然なんだがな」

「そんなわけで俺にはアイツが何をしているかは分かんねえ。ただ最近金は使って兵隊を集めていることは分かってる。どこからそんな金が湧いてくるんだか」

「まあ、金は良いとしても、問題は兵隊だわな。何に使うんだか。これ以上何かするようなら俺もいい加減腹くくらねえといけねえ」

☆「もし調べるつつならとりあえず金の動きを調べてみると良いかもしれねえな。歓楽街にうちが仕切ってる店があるから行ってみると良い。俺の名前を出したら色々聞けんだろ」

彼はそういうと外から演説する声が聞こえてくる。どうやら市長選挙の公約のようだ。

彼はそれを聞くと「話をするような感じじゃなくなっちゃったな」と席を立つ。

「ごちそうさん。また何かあったら連絡してくれや」

◆柴葉彩菜との出会い

PC1のシーン。午後になる。街頭で彩菜が台の上に立ち演説をしている。

内容をまとめると子供たちが安心して過ごせる街作りというものである。

彩菜は様々な人の顔を見るように力強く、その歳でそこまでの演説を行うのは相当な訓練が必要だと感じるほどに立派にマニフェストを語っている。

その姿は確かに美人すぎると誇張されてもおかしくはないだろう。

そのうちPC1は彼女とぼっちり目があつた事に気づくだろう。

そして彼女が初めて人間らしくとても驚いた表情を見せる。

彼女は咳払いをすと演説を続ける。

<目星>+30%に成功すればマイクを持っていない方の手が微かに動いているのが分かる。

PC1が技能に成功した場合、それはPC1と生き別れた姉だけが知っている秘密のハンドサインだった。

サインの内容は『あとできて』というものである。

そして演説が終わると彩菜はPC1を連れて近くのカフェへ入っていく。

そこは個室があるタイプのカフェだった。夜は居酒屋になるらしい。

「ねえ。もしかしなくても、貴方、【PC1の名前】？」

そこで頷くと彼女はとても嬉しそうに笑う。その笑顔はあの頃に見た時とどこかダブって見える。そのまま一致しないのは彼女がとても美しく成長しているからである。

彼女と近況を話すと以下のような事が分かるだろう。

・自分たちは児童養護施設の出身だから、自分たちのような境遇の子供たちを増やしたくないというマニフェスト通りの事である。

・家の事を聞くのであれば、柴葉大介は昔に事故で無くなったと言われる。

他に身寄りがなかった柴葉大介の遺産を受け継ぐことになって、今まで一人で生きてきたというらしい。

その事を語るときの彼女に<心理学>に成功すれば、苦し気な心境だと分かるだろう。(無論当時の事を思い出しての心境である。どちらとも読み取れるように誘導すること)

しばらくすると彼女は連絡先の交換を申し出てくる。

「しばらくは分かると思うけど忙しくてね。でも落ち着いたらなんて言わない。暇な時を見つけたらすぐに連絡するし、【PC1の名前】も連絡して。今まで会えなかった時間を取り戻さなきゃ！」

彼女はそういうと、彼女に電話が掛かってくる。

伝票を取りながらテーブルから離れる彩菜。PC1にウィンクしながら手を振りつつ電話をしている。

<聞き耳>に成功すれば、「分かりました。それではそこを動かさないでください」と告げるのが分かる。

◆古瀬の発見

PC4のシーン。

探索者に人探しで必要になりそうな技能を2回成功するまで振ってもらい、ロールさせる。成功か否かに関わらず、見事に古瀬を発見するシーンである。使用する技能は何でも良い。

(これは自ら考えて技能を振ってそのロールをしたという自由度へのガス抜きを兼ねている。)

小さな表札も掛かっていない古民家で古瀬を発見した探索者は古瀬詩織に電話するだろう。

すると「分かりました。それではそこを動かさないでください」と連絡を受ける。

探索者がしばらく待つと再度電話が掛かってくる。内容はもう家を出てもらって構わないというものと、彼に娘が今から会いに来ると伝えてくださいとのことだった。

探索者が彼にそれを告げると、古瀬の表情は青ざめていく。心理学を振るまでもなく怯えているのが分かった。

彼は探索者に縋りつく。

「私には娘なんて居ない。お願いだ。私を助けてくれ。このままでは私は殺されてしまう！」

彼はまるで発狂したかのように泣き叫ぶ。

探索者が彼をどこかに連れ出そうとする場合、ナンバーを隠した車に引かれる、もしくはすれ違いざまにナイフに刺される。等、KPが思いつく限りの方法で殺される。

ただし瀕死の彼は車で運ばれ誘拐されてしまう。

その光景を目にする場合正気度判定(1/1D4)

彼を無視して家を出ようとした場合は探索者に意地でもついていこうとする。

簀巻きにするなどの方法で彼から離れた場合は、翌日死亡していることを知ることであり、同様の正気度判定を行うこと。

なお<アイデア><マーシャルアーツ>に成功した場合はその動きが明らかに素人であることが分かるだろう。

☆ここまでが導入である。

ここからは順にPC2→PC3→PC1→PC4の順に処理していくこと。

KPIはPL達に合流しなくても大丈夫だと告げても良い。(経験者はCOCで一人で活動することは危険だと考えていると思われるので)

ここからはこれからのセッションで起きるであろうイベントの一例と、起こる可能性がある一例である。

もし行動に迷っているのであれば、KPIはタイミングを見計らってイベントを起こすこと。無論スムーズに進行しているのであれば必要はないだろう。

◆大島大河からの電話

PC2のシーン

彼は「すまねえ、警察になっちまったお前に頼めることじゃねえんだが」と前置きをして喋り始める。

「最近のこの街の事情をお前も知ってるだろ？ 俺たちヤクザが騒がしいことも。それは全部千堂明ってやつがせいなんだ。やつは金にものを言わせて大勢の兵隊を集めて何かをやるうとしてるんだ。俺が下手に末端をボコっちまうと相手に口実を与えちまうからよ。お前に頼みたかったんだ。もし興味があれば俺たちが良く使ってたファミレスに来てほしい。警察として加担するわけにいかないってんならもちろん無理にとは言えねえけど、どうだ？」

それに対して協力するならファミレスに移動することになり、変装した大河と合流する。

彼が協力してほしいというのは電話で聞いた内容と重複するが、千堂に近いゴロツキの住所を控えているので、そこに殴り込んで千堂が何を企んでいるのか暴いてほしいとの事。

それに承諾すればゾンビ相当のヤクザ一人との戦闘になる。

彼は酒に酔っているのか、技能に-10%修正が入っている。

彼を簀巻きにして情報を吐かせれば、忠誠心も無いのですぐに情報を吐くだろう。

彼が知っている千堂の情報は、千堂が親分を殺して自分が組を乗っ取ろうとしていることである。

金の出所に関しては分からないが、大金を簡単に提供してくれるパトロンを得たとのことである。

その後に貴方の携帯が鳴る。古瀬井星が殺されたという内容である。交番を空にするわけにいかないから交番の方で待機して貰って良いか？ とされる。

◆ 歓楽街

PC3のシーン

・このシーンの前にPC3にどう行動するか聞いてみると良いかもしれない。
三好から歓楽街の事を聞いていなければ、ヤクザの収入源とは何だろうという質問で誘導するのも良いだろう。

組が仕切っているソープがある。

監視部室でその従業員に三好の名前を出して話を聞くと、確かに千堂はこの店に金を回収しに来ているが、いつも通りの金額しか取っていないのが聞ける。

もしもそれ以上に集金しようものならすぐに噂が広がって自分も知っているはず。だからこの歓楽街の箱(店舗の意)からは金は取っていないと彼は言う。

<アイデア>に成功すると視線を感じる。振り返ると部屋を覗きこんでいる女性を見つける。

従業員は「放っておいて良いですよ。あいつは頭がいかれてるんですよ。なりは良いし、マニャックな事もやらせてくれるんでって入れ込んでる客が居ますが、とにかく会話にならねえんですわ。もしも興味があるならあてがいますがどうします？ もちろんカメラは切っておきませぬ」

それに同意すると従業員は女を彩葉(さいば)呼び、部屋に案内させる。

彼女は部屋に入ると深々とまるで土下座するかのように手をつく。

「さいばです。よろしくします！」

女はまるで大人の体の中に子供を入れたような印象を受ける。

ともかく言動が幼いのだ。会話は出来そうではあるが、どうにも不気味である。

<精神分析>に成功すれば少しだけ言動がまともになるかもしれない。

※この技能判定はKPから誘導しないこと。

<信用>に成功すると

「お兄さんは一人でえっちするんですか？ みんなでえっちするんですか？ さいばは一人が好きです。だって疲れるからです！」

「お兄さんはお父さんのお友達ですか？ さいばは早くお父さんと会いたいです。いつになったら会えるのかなあ？」

「このお部屋は小さいです。さいばのお部屋はお父さんのお友達がいっぱいでも大丈夫でした。この部屋はさいばが六人くらいでいっぱいです。」

情報収集以外どうするかは自由である。

ともかく部屋を出ると従業員が居る。

彼から聞けることは、あいつはボロボロになっている所を拾った。

名前を聞いたら柴葉と名乗った。

何か覚えていることを聞くと、父親とその友達と性行為をしていた事くらいと、あーちゃんって友達がいるらしいことくらいだという。

「どうすればああなるんですかね。もう数年この店で働いてますし、この業界の暗い部分も沢山見てきましたけど、アレは結構来ますよ。俺らが使い潰したやつらはあんな風になるのなんて」

ちなみに何故警察などに連絡しなかったのかと問うと「自分の職業柄要らぬ疑いを掛けられたくないというのもあったし、何より父性ってんですかねどうも庇護欲にかられちゃったんですよ」と苦笑する。

・編集長からの電話

PC1のシーン

※柴葉彩菜には繋がらない。だがメールに忙しいから後で折り返すわねとメールが来る。

その後に編集長から電話が来る。

記事に関してはどうだと聞かれる。

良好そうなならば、柴葉彩菜をメインにした記事にするかという事になり、彼女のパーソナルを知りたいと言われる。そこで彼女の経歴などを詳しく調べてくれと言われる。

「もしかすれば良いゴシップネタが転がってるかもしれないし、何よりそれをネタに争ってる他の候補が高く買ってくれるかもしれない。その為には柴葉彩菜候補には是非頑張っていたきたいね。一先ずは昔の写真とかあれば良いのだが」

どっちに行くか決めてもらう。自分で提案してくれるのであればそれが一番良いだろう。

★屋敷に行く

鉄格子が閉まっており、乗り越えて侵入してもドアが開かない。ぐると一周してみても侵入できそうな場所は無さそう。

<目星><アイデア>に成功すれば、電気メーターが回っているのが分かるしかも速くは無いが気になるくらいの速さではある。

一人暮らしであると事前に聞いているので、中に誰か居るかもしれないと感じるだろう。

※これはハーレムを改造した研究室の維持に使われている電力である。

<鍵開け>に成功すれば中に入ることが出来るだろう。その際に諸々入れて1時間が経過したと伝える事。中には絨毯が引かれており、台車で重いものを運搬したかのような跡が残っている。それは壁沿いにある本棚の前まで続いているようだ。

<目星>に成功すれば赤い絨毯の一部に赤黒い染みがあるのが分かる。

<アイデア><医学>に成功すればそれが血液であることが分かり、それが最近になってついたものではないかというのが分かる。探索者はここで行われた薄ら寒い背景を想像することにより正気度判定 (0/1)

その情報を出したら<アイデア><聞き耳>を振らせる。成功すれば、何かの気配がすることに気づく。そしてそれはじっと探索者を見ているような錯覚を覚える。正気度判定 (0/1)

※ここでKPはどうするか聞く。これ以上探索するようだったら望むようにさせること。ただし理不尽な結果になっても文句は言わないようにと忠告しても良いだろう。

本棚の前に行っても何も無い。本棚はずらせず、実は持ち上げると上にスライドするようになっている。持ち上げると下には床しき倉庫のような扉を見つけるだろう。それに鍵開けする際には本棚を支えておかねばならず<STR14との対抗ロール>である。

※背中本棚を支えることになる為あまり身動きが取れない状態になることも告げる事。

それに成功して<鍵開け>-15%に成功すれば扉は開くだろう。

扉を開くと奥は暗い。そして奥から極光が飛来し、探索者は即死する。

屋敷を探索すると、彩菜の日記を発見するだろう。

※KPは読むか尋ねる。

読むのであれば、彩菜が強姦の目的で養子に貰われた事。この屋敷の地下で様々な大人達から強姦されたこと。数年後のある日、声が聞こえたこと。屋敷に誰も居ないのを見計らってその声の主に出会うとそこにはおぞましい怪物が居たこと。でも自分と同じように囚われており、同じ境遇を哀れんだこと。彼と一緒に協力して屋敷の主を殺したこと。遺産は全部自分が相続したこと。自分を強姦した人間全てに復讐すると誓ったこと。自分が表舞台に立って著名人達に自分の存在を誇示することで復讐してやるという意味表示をすること。無論精神的に追い詰めてから裏ではきっちり殺す為には扱いやすそうなヤクザと手を組んで、著名人達を殺して回っている事が分かる。

※そして日記を読み終わった探索者が部屋から出ようとするところにはミ=ゴが立っており、そのまま無残に殺される。

※探索者はそのままのステータスで同じような立場のPCを作成して、そのままプレイを継続すること。目的は失踪したPCを追うなどの適当な目的にすればいいだろう。

★児童養護施設にいくと

施設の前。そこには随分歳を取ったが自分に良くしてくれた木場秋広が居るだろう。

彼に彩菜の事を聞くのであれば、彼は体を震わせる<心理学>に成功すれば、彼がとても気が弱く、非常にその話題を恐れているのが分かる。後ろめたさもあるだろう。

「彼女は柴葉大介さんの所へ養子に出したんだ。柴葉さんに関しては大層な資産家だよ。彼女もそこで何不自由なく過ごしたんじゃないかな。その証拠に今ではあんなに立派になって……」と彼は言葉を濁す。

<信用><説得><言いくるめ><マーシャルアーツ>に成功すれば、彼は白状するだろう。なお脅すなどの少し強面なロールをするのであれば技能に+20%してもいいだろう。

「私は、その、柴葉さんと取引をしていたんだ。金を受け取る代わりに可愛い子が入所してきたら彼に報告するというね。そして彼が養子と引き取るんだ」

「彼にはそういう趣味があるらしいんだ。君も大人なんだから分かるだろ？ そういうことさ」

「聞いた話によると、所謂ハーレムというのかな？ そういうものを作っていたらしい。子供達を安全に抱ける場所さ」

「幻滅しただろう？ 罵ってくれて良い。思う存分殴ってくれ。彩菜と仲が良かった君にはその資格がある」

「もし君がこの件に関わりたなら只野茂武(ただのもぶ)さんに会ってみると良い。彼は柴葉さんと親交が深かったからね。もしかしたら何か分かるかもしれない。アポを取る時は、柴葉さんと私の名前を出すと良い。きっとそれで取り次いでもらえるよ」

彼はそういうと施設に向かって歩いていく。奥には多くの子供達が遊んでいるのが見える。

「柴葉さんが死んだ時ね。実を言うと私は少し嬉しかったんだ。変な話だろ？ もう子供達を騙さなくて良いんだってね。私はここで贖罪をして生きることに決めたんだ。身を粉にしてね。それにもし彩葉に殺されることになって私もそれを素直に受け入れるよ。君に懺悔してもう私は抜け殻さ」

★只野茂武に会う。

言われた通りの方法でアポイントを取ればすぐに会うことが出来るだろう。

彼は酷く怯えている様子である。

話を聞くのであれば、彼が知る限りの事を何でも教えてくれるだろう。

ただし、ハーレム関連の事などしか知らず、千堂達との事とは無関係である。

話の途中で、そういえば、と彼は何かを思い出す。

「そういえば彼は年々性欲が減退していることを嘆いていたな。そしてしばらくすると、彼は何でも不老不死の研究を始めたなんて眉唾な噂が僕らの中で流れるようになったんだ。普通は信じられないかもしれないし、僕も信じていなかったんだけど、中には酷くそれを信じてしまっている人も居た。中でも古瀬さんとか大島さんとかは信じていたようだ。彼はとても突飛な人だから。何にしても、私たちは罪深いことをしてしまった。罪のない幼気な少女たちをまるで道具のように」

・古瀬詩織からの電話

PC4のシーン

電話が鳴る。相手は古瀬詩織である。

「今お金を入金いたしました。ご確認ください」

口座に100万入金されている。目の前で古瀬井星が殺された件について問うと彼女は言葉に詰まる。そして受話器越しに泣き声が聞こえてくる。〈心理学〉-15%に成功すると、それが演技であることが分かるだろう。

その事も追及したり、何が目的かと尋ねると彼女の口調が冷徹なものに変わる。

「貴方も探偵なら既に察しているんでしょう？ 私が井星を殺害するために貴方に場所を探させたことくらい。貴方は殺人事件の片棒を担がされたんですよ」

彼女はそう笑う。

「どうしますか？ 私を追いかけますか？ それとも私ともう一度仕事をしますか？」

・追いかけると告げるのであれば、彼女は「待っていますね、正義の探偵さん」と電話を切る。

・仕事をすると答えるのであれば、今度は只野茂武の居場所を探ってくれと言われる。

〈アイデア〉+15%に成功すればそれはこの街の前市長であることが分かる。

理由を聞いても教えてくれないが、報酬は今回と同じ額を用意すると言われる。

★古瀬詩織について調べる。

〈図書館〉に成功するとそんな人物は存在していないことが分かる。

古瀬井星には娘は存在していない。

★古瀬井星について調べる。

技能を振るまでもなく彼は有名な純文学を得意とする小説家であり、結婚もしておらず、養子も取っていない事が分かる。

<図書館>-15%に成功すると彼には黒い噂が流れている。何でも彼が無名だった頃に、未成年を買っていた現場を目撃したという。といっても無名だった頃に彼の人物像が目撃されているというのも可笑しい話ではあるが、それほどに足繫く少女たちと関係を持っていたのかもしれないことが分かる。

そしてそれはある時期を境に一切なくなったという。その頃には彼は既に有名になっていた。

★彼が居た古民家を搜索する。

<目星>に成功すれば、パスケースを見つける。そのパスケースにはカードが入っており、そのカードには『アルカディア』と書かれている。

アルカディアに関して調べても何も分からない。ただしこのカードは駅の改札などでも使うような磁気カードが付いている。

※このカードは柴葉大介が作ったハーレムへの会員書である。

・彩菜と出会う

PC1のシーン

PC1の電話が鳴る。相手は柴葉彩菜だ。彼女は今から食事でもしないかと探索者を誘う。指定された場所はホテルのラウンジである。向かうとそこには見事にメイクアップされた彩菜が居る。

彼女と最上階のレストランで食事をする事になった。

「ねえ、【PC1の名前】貴方良い人居ないの？」

「そう。ならさ、お姉ちゃんと一緒に暮らさない？ 私の屋敷で一緒に。もちろん【PC1の名前】に良い人が見つかったら出て行っても良いからさ。ね？ どう？ きっと楽しいわ」

「私ね。貴方と離れ離れになって、とても辛くて。だから今は安心できる相手とずっと居たいの。無くしてしまった時間を、取り戻したいの。すぐじゃなくても良い。お互いが忙しくなくなったら、ね？」

どう返事しても良いが、受けるなら。

「ありがとう。約束よ？ ふふ。この約束のおかげで明日からも頑張れそう」

そう言ってその日は解散になる。

※このシーンを使って彼女の狂気を演出しても面白いかもしれない。

※なお、この時に彩菜に只野茂武などの情報を聞き出そうとしてもはぐらかされるだろう。

例「前市長さんでしょ？ それくらいしか知らないけれど」

孤児院で木場秋広に出会った。ハーレムで何があったかも知っているなど、具体的な事を聞くのであれば、彼女はただ一筋の涙を流すだろう。

「私の事をどう思う？ 私の事を守ってくれる？」

「なら、【PC1の名前】は私の【味方だねor敵だね】」

彼女はそう言うと、また今度とほほ笑んで席を立つ。

・彩菜と出会う

PC4のシーン

引き続き起こるイベントである。

都内のホテルから出てくる彩菜を見かけるシーンである。

<アイデア><APP×5><目星>に成功すると彼女が古瀬詩織だという事に。同時に彼女が市長選に出馬している柴葉彩菜だという事に気づくだろう。

話しかけるのであれば、彼女は少しだけ妖艶な笑みを浮かべる。

「あら、探偵さんこんばんは。もう見つけてくれるなんて、貴方は名探偵なのですね」

「そうです。古瀬詩織は私の偽名です。そちらの方が都合が良いかと思ひまして。こんな所で立ち話もなんですし、どこかに入りませんか？ 私今上機嫌ですのでお酒が飲みたいのです。案内して下さる？」

適当なバーに入る。

「それで何か聞きたいことがあるのですか？」

彼女は酔っているから色々な事を教えてくれるだろう。KPが妥当だと思うことを答えること。

・何故殺しているかという事を尋ねれば彼女は静かに笑う。

「復讐です。私にはその権利があるんです」

・パステースを見せるのであれば。

「私はそこで汚らしい大人達に強姦されていたんです。ふふ。私の事汚らわしく見えますか？」

彼女は笑いながら自分の携帯を見る。彼女は一瞬表情が凝固するがすぐにそれは戻る。

「どうしますか？ 私を捕まえますか？」

彼女は手を差し出す。手を伸ばそうとしても寸前で手を引かれるだろう。

「残念でした。それじゃあ、探偵さん。私を追ってらして。貴方のその正義感で私を捕まえてきてください」

・連続殺人(PC2&3)

キャストはそれぞれの場所でニュースを見る。それは高杉修氏が殺されたというものだった。彼は市長選に出馬した候補の一人である。清廉潔白で熱血漢なイメージある男性であった事を覚えている。

<図書館><アイデア>に成功すれば彼の周囲に全く黒い噂が無いことが分かる。

※彼のパーソナルは全く意味のないものだ。だが、完全に無関係な人物が殺されたという事こそが重要なのである。彩菜の殺す動機が復讐であるのに彼は無関係であり、これは千堂が個人的な考えで行った余分な殺人である。

★KP用の背景1

裏で起きている背景。

彩菜はニュースを見て店から立ち去っているのである。ニュースは無論高杉の殺害の件だ。千堂としては彩菜の対立候補を殺すことで当選を確実にしたいという、正気度を失った者特有の飛躍した考えがあるのだが、彩菜にはそれは余分な殺人である。彼女と彼はそこで一度衝突をしている。無論千堂は既に狂っているなのでその言葉が届くはずがないのだが。

★KP用の背景2

これからのシーンで起きる事のまとめ。

千堂は親分の孫の勝岡弘子(かつおかひろこ)を誘拐して柴葉の屋敷に連れ込む。

彼は度々ミ=ゴと取引をしている。その一環としてバイオ装甲をもらい、部下に着せて自爆特攻を計画している。

しかし、弘子が彩菜に見つかり再度口論になり衝突する。彩菜は隙を見て携帯を弘子に渡して屋敷内の隠し部屋に彼女をかくまう。そしてそれで私の弟と探偵さんに助けを呼んでと言い残して時間を稼ぐために再度千堂に立ち向かう。彼女は小さい頃に強姦を受けており、その理不尽さをこれから弘子が受けることに耐えきれなくなったのである。

無論、ただの一般人である彩菜は千堂に勝てるはずもなくやられてしまう。

しかし殺される直前でミ=ゴにそれを止められる。彼女はとても優秀な頭脳と才能を持っており、ミ=ゴからすれば優秀な手駒なのである。しかし既に千堂によって半殺しになった彼女は既に助かれないと判断し、どうせならばと脳缶にすることにしたのである。

弘子はこの時間を利用して、屋敷で隠れて電話を行っているのである。

・古瀬井星の実宅

PC2のシーン

翌日の昼。貴方が交代で現場に向かうと既に警察が大勢待機している。野次馬から現場を確保するために駆り出されるだろう。

彼の隣には先日であった気だるげな警官が居る。

「よお、またお前か。今回も災難だったな。にしても今回はすげえぜ。なんせガイシャの首が無いと来たもんだ。直接的な死因は頭部が無くなった事による失血死らしんだが、その前にどうも車に引かれたみたいな外傷があるみたいだぜ。どんだけ恨まれてたんだろうな」

※この首が無いのはミ=ゴに首を渡す為である。

そんな時PC2の携帯が鳴る。相手は先輩の刑事である。

「すまない。そっちも忙しいとは思いが既に許可も取ってある。至急町外れの倉庫に向かってくれないか。お前さんみたいな腕っぷしが強い方が喜ばれるみたいなんだ。何でも組どうしの抗争だったらいいんだが、どうも死因が可笑しくてな頼んだぞ」

町外れの倉庫に移動すると、急激な寒気を感じる。まるで時期を2か月ほど飛ばしてしまったかのようだ。(現在10月)

そこでは野次馬と警察がごった返している。

同僚の警官からはこっちは良いから中でテープを張って現場を保存してもくれないかと頼まれる。

中に入ると一人の男。外見からすればきっとヤクザであろう人間が凍傷で死んでいるのが分かる。この時期にそのような不可解な死体を見たことによる正気度判定(1/1D4)。

そして携帯が再度鳴り、電話が来ていることが分かる。

それを取ると大河からの電話である。

「お前も見てるだろ？ 信じられないかもしれないけど、それは三好さんっていう千堂の親分だった人でな、あいつ自分の親分を殺しやがったんだ。そして事もあろうか、組長の孫を誘拐しやがった！ 頼む。力を貸してほしい。警察になる為にコンビを解消したお前に頼む事じゃないってのは分かってるんだが、今はとにかく腕っぷしが必要なんだ。もし来てくれるなら外で待ってる」

外に出るとボロボロになった大河が居る。

その光景に周囲の人間は警官も含めて怯んでいるようである。

「一人で粋がってこの様だ。でも俺とお前が組めば——」

二人で夕焼けに向かって歩いていく。

・組からの電話

PC3のシーン

「すまねえ、【PC3】さんかい？ 組が大変な事になったんだ。すぐに組長のとこに来てくれねえか？」

電話してきたのは組のもので、探索者とは面識がある、

組に向かうと既に大量の車が並んでいる。

家の中に入るとそこには静かに座る勝岡の姿がある。

自分の親分の後ろに座ると勝岡が話し始める。

「集まってもらったのは他でもねえ。三好んとこの千堂って小僧の事だ。もう既に知ってるやつも多いとは思いますがこれを見てほしい」

そう言うと勝岡の後ろに控えていた男達がそれぞれの親分たちに二枚の写真を配り始める。見せてもらうのであればそこには何故か氷漬けで殺されている三好の姿があった。自分が数時間前に一緒に食事をしていた相手であり交友の深かった知人の死を知ったことにより正気度判定を行う。(1/1D4)

もう一枚の写真は小さな女の子と一緒に映った千堂の姿である。

子供は裸に剥かれており、両手を縛られている。千堂はその子供のこめかみに銃を突き付けて不敵に笑っている。

「二枚目は俺の孫だ。今年で7歳になる」

周囲からはあの野郎だとか、ぶっ殺してやるだとか漏れるのが聞こえる。

<アイディア>+30%に成功すれば勝岡の息子は堅気であり、普通の家庭を築いてる事を知っている。

「あの野郎は筋者が絶対にやっちゃあいけねえ事をやっちゃまったのさ。この世界は義理と人情の世界さ。もちろん俺の考えはもう古いつてのは分かる。だがよ、お前たちはこの考えに賛同してついてきてくれた家族のようなもんだと俺は思ってる」

周囲からは「俺たちも組長の事は本当の親父のように思ってますぜ」「組長の家族は俺たちの家族でもあるんだ。あの野郎は俺らの家族に手をかけやがったんだ」等聞こえてくる。

「何より千堂の野郎は俺たちの面子を汚しやがったんだ。皆覚悟はできてるかい？」

その言葉に全員が立ち上がり男たちは吼える。

<聞き耳>に成功すると廊下を歩く音が聞こえる。既に親分たちは全員揃っており、来客の予定などはない。その音は何か急いでいるようであった。そしてその音は部屋の前で止まる。

障子を開けて入ってきたのは一人の男である。見たことはない、どこかの新入りかもしれない。

男は「すみません、失礼します」と言うと、部屋に入ってくる。「何者じゃいワレ」などの威嚇する声上がるが男はそれを無視して続ける。

「千堂の野郎からこんなもんが届きまして」勝岡が何？ と訝しく声をあげる。最悪の結末を予想してしまったのかもしれない。男は「こんなもんなんですが」というと、コートを脱ぐ。

<目星>に成功すれば男の体に大量にダイナマイトが括りつけられている事が分かる。技能に成功した場合のみ探索者は行動することができる。(爆発を防ぐことはできない)

その瞬間に部屋が爆発をする。

もしも技能に失敗した場合は組の誰かが親分を爆風から庇っている。探索者は自分の親分から庇われている。もし技能に成功したのであれば、自分の親分は組長を守れと命じるだろう。

全員同じように組長を庇おうとしたから爆風の影響はさほどない。

探索者は1D4のダメージを受ける。組長は無傷のようである。

この部屋で動けるものは組長と探索者だけのようである。爆発した男は既に死んでいるのだが、体に奇妙なものを着ているのが分かる。まるで皮膚に張り付くようにして纏われている箇所はまるで無傷なのである。ただそれ以外の箇所、顔などのその奇妙な装甲が覆われていない箇所は酷い火傷を負っておりそれが原因で死んだのだろう。

あまりの悲惨な出来事に正気度喪失を行う(0/1)

「おめえさんは無事だったか。良かった。先ずは、救急車だな」

そう言うと勝岡はどこかに電話を掛ける。

それが終わるとどこかに行くようだ。話しかけるなら。

「これ以上家族がコケにされちゃあな」

そう言いながら白鞆を持ちどこかに行こうとする。

それを止めるなら探索者を信頼してその白鞆を探索者に託すだろう。

※組紋の入った白鞆

性能:基本15%の日本刀技能。1D10+4+DBのダメージ。耐久は15

「千堂の野郎は外れの屋敷に居るそうだ」

PC3は夕日を背負い歩いていく。

・彩菜からの電話(PC1&4)

彩菜から電話が掛かってくる。しかし相手は彩菜ではなく、何かに怯えている子供のようにある。彼女からの通話は会議通話で誰かが他に参加しているようだ(PC1と4)

「あの、あの、助けてください！」

電話越しに＜精神分析＞を試みるなら-15%で行うことが出来る。成功すれば落ち着かせることができるだろう。無論、ここでの成否は特に関係ないが成功した方が詳しく受け答えが出来るだろう。

「はやくしないとお姉ちゃんが殺されちゃいます！ 早く助けてください！」

「えっと、確か彩菜って呼ばれてました、大きな家です。まるで外国のお城みたいな」

「お姉ちゃんは私を逃がすために悪い人に捕まったんです、お願いします、助けてください！」

この電話は個別に行っても良いが内容は大体同じである。

弘子にはそこまで自由な時間はない。

向かう途中で他の探索者達と自然に合流するだろう。

夕日を背負って男達は同じ目的地へと歩いていく。

(自己紹介や会話が無くとも良いかもしれない)

・屋敷での戦い

柴葉の屋敷には多くのゴロツキ達が探索者達を待っていた。

人数は50人程度であることが分かる。

KPIはこれらのルールを読み上げねばならない。

この敵はHP1単位を一人のヤクザと見なした敵と戦う。

敵は当然複数攻撃を行ってくるものとする。

具体的に言えば、KPIはラウンドの最後に1D2を振り、その出目の回数分、探索者全員に40%の物理攻撃を行う。

この判定は回避や受け流しは当然行えるものとする。

命中した場合1D2ダメージを受ける。

なお相手の回避は5%として扱う事。

戦闘が終わり屋敷に入ろうとすると増援が駆けつけてくる。NPCはここでそれらを引き留めるべく残り、探索者は最後の戦いへと赴く。

・屋敷での戦い

屋敷に入ってすぐのエントランスホールには千堂が居る。

彼はまるで役者のように両手を広げ探索者達を出迎える。

KPIは適当だと思われる台詞を選んで話すこと。

「おお、これは皆さんようこそ！ 我が屋敷へ！」

「ヤクザと警察が手を組んだとは、この街も末期だな」

「さて、【PC3の名前】さん。貴方が消えれば組長を守る者は誰も居なくなる。貴方が持つてるその白鞘は私がもらってあげますよ」

「あん？ 彩菜？ ああ、あの柴葉の女か。少しは利用できるかと思ったが手のひらを返しやがって。安心しろ、死んではないさ。あいつにはまだ利用価値があるらしいからな」

彼はそう笑う。

「さあそれじゃあそろそろ皆さんには死んでもらうとするか。私は非常にせっかちなんでね」

彼はそう良いながら銃を向けてくると天井から何やら音が聞こえてくる。それは羽虫のような音なのだが非常に大きい。

そして千堂の横に現れるのは非常に大きなエビのような甲殻類を思わせる外見に羽の生えた生物である。しかし甲殻類のそれと違うのは顔から触手がびっしりと生えている事と、明確な敵意を持っているということである。そのあまりに不気味生物は君達の鼓膜を狂気の色で塗るには十分であり、本能が嫌悪、忌避しているのが自身の体の震えから十分に理解できる。

それを見た探索者は正気度の喪失が起こる。(0/1D6)

千堂明

STR10 CON10 SIZ15 INT17 POW9 DEX7 APP15 EDU19 SAN0

耐久13 装甲2 回避14

拳銃60% ダメージ1D8 ラウンド2発 装填8

ミ=ゴ

STR11 CON11 SIZ11 INT13 POW13 DEX14

耐久11 装甲0(貫通する武器は全て最小値になる)

ハサミ30% ダメージ1D6

◆見事に勝利すればエンディング。

以下はエンディングの一例である。

・探索者達が声を上げて探せばすぐに弘子は見つかるだろう。
彼女は泣きながら探索者達に彩菜が助けてくれたことを話す。
「お姉ちゃんが私を守ってくれたんだ。携帯を持たせてくれて私の弟と探偵さんに電話してって。でもお父さんの電話番号を知らなかったから、あの、えっと」
彼女はそこで感極まってしまい泣き出してしまう。

・探索者達が注意深く屋敷を調べれば床下にある隠し扉を発見する。
進むと屋敷は次第に研究所めいた構造へと変わっていくだろう。
しばらく進むと、扉が一つあるのが分かる。そこはカード認証が必要な扉のようである。
アルカディアの磁気カードを使うのであれば扉は開く。
奥には様々な機器が所狭しと並んでいる。

ここで<聞き耳>を振らせる。成功した探索者は女性の声を聞くだらう。
その声に導かれるように歩いていくと、そこには沢山の管の繋がれた鉄製の缶がある。
缶の中には透明な蓋越しに脳が液体に浸されているのが分かる。(基本ルルプP198参照)
声はその缶から聞こえてくるのだ。

「そこに居るのは誰？」

その声は、柴葉彩菜である。

「会話は出来るけど何も見えないの。ねえ、そこに居るのは誰？ もしかして【PC1の名前】？」

その光景とやりとりを見た探索者は正気度判定(1/1D3)

※この装置はまだ未完成であり、視覚機能を調整する前にミ=ゴは千堂に呼ばれたのである。

「私、今目が見えないの。そして何も感じない。ねえ、私今どうなってるの？」

状況を教えるにしても教えないにしてもKPはPLの返答を待つべきだらう。

「もし、もしも私の姿が貴方の知っている姿じゃないのなら……」

「——【PC1の名前】の手で、殺してくれない？」

「ねえ、私はどうすれば良かったの？ 復讐なんてしないで泣き寝入りしていれば良かった？ 我慢して気持ち悪い大人たちに犯され続けていれば良かった？ ねえ教えてよ、【PC1の名前】……」

後は自由に演出すればいいだらう。